

1947年
交響曲第2番 金井 喜久子

1961年
ピアノとオーケストラのための協奏詩曲「舞い楽」 大木 英子

2007年
ケセラシ・パサラン 小出 稚子

2013年
新作委嘱作品・世界初演
ピアノとオーケストラのためのレクイエム 金子 仁美

指揮：梅田 俊明

ピアノ：中川 賢一

管弦楽：仙台フィルハーモニー管弦楽団

解説：片山 杜秀

仙台フィルハーモニー管弦楽団 特別演奏会

日本の現代作曲家

～邦人女性作曲家の軌跡をたどる～

2013年11月3日(日) 午後3時開演(午後2時30分開場)

会場：日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)・コンサートホール

チケット発売日：2013年8月21日(水) 全席自由 一般 3,000円 学生 1,500円 プレイガイド：チケットぴあ、ローソンチケット、イープラス、藤崎
チケットのお申し込み お問い合わせ：仙台フィルサービス ☎022-225-3934 <http://www.sendaiphil.jp/>

主催：公益財団法人 仙台フィルハーモニー管弦楽団 助成：公益財団法人 アフィニス文化財団
後援：宮城県、仙台市、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台商工会議所、河北新報社、仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、三軒茶屋テレビ、IO-13東日本放送、Date fm

※やむを得ない事情により出演者・曲目等が変更になる場合もございますので、あらかじめご承知おください。 ※不可抗力により表記日時の催事を中止する場合は、料金の払い戻しをいたしません。
※ご来場の際は、地下鉄やバス等の公共交通機関をご利用ください。 ※未就学児の同伴入場はできません。 ※開演(演奏)中の客席への入退場は一切お断りいたします。

※再生紙を使用しています。 ※このチラシはリサイクルできます。

日本の現代作曲家 ~邦人女性作曲家の軌跡をたどる~



指揮者
梅田 俊明
UMEDA Toshiaki

84年桐朋学園大学音楽学部を卒業。86年同研究科を修了。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、コントラバスを小野崎充、ピアノと室内楽を三善晃、井上直幸の各氏に師事。83、84年には来日中のジャン・フルネ氏にも学んだ。86年よりウィーン国立音楽大学指揮科に留学、オトマール・サイトナー

氏に師事し研鑽を積んだ。帰国後、日本センチュリー(89~92年)、仙台フィルハーモニー(90年~2000年)、神奈川フィルハーモニー(92~96年)の指揮者を歴任。NHK響、読売日響、東京都響、新日本フィル、日本フィルを始め、国内主要オーケストラとの共演を重ねている。2000年4月より仙台フィルハーモニーの常任指揮者に就任。オーケストラの発展に情熱を注ぎ込み06年3月までその任を務めた。01年第1回、04年第2回仙台国際コンクールでは全ての協奏曲を指揮し、出場者、聴衆、国内外の審査員から絶賛を博した。06年には大ブームとなったドラマ「のだめカンタービレ」に、演奏及び指揮指導で参加し、注目を集めた。96年1月には南西ドイツ・フィルハーモニーとスロヴァキア・フィルハーモニーの定期演奏会に出演、いずれも好評を博した。的確な棒さばきと音楽に対する誠実な姿勢でオーケストラからの信頼も厚い。桐朋学園大学、東京藝術大学非常勤講師。



ピアニスト
中川 賢一
NAKAGAWA Ken'ichi

仙台市出身。仙台第二高等学校を経て、桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻、同時に指揮も学ぶ。卒業後、ベルギーのアントワープ音楽院ピアノ科最高課程、特別課程をそれぞれ優秀、首席の成績をおさめ修了。在学中にフォルテピアノ、チェンバロも習得。97年オランダのガウデアムス国際現代音楽コンクール第3位、ヨーロッパ国内外の様々な音楽祭にも出演。

98年帰国後は、ソロ、室内楽、指揮などで幅広く活動。NHK-FM出演、新曲初演多数。夏木マリの「印象派」シリーズ連続出演や、故・頼近美津子、伊藤ひろ子、平野文等との朗読と音楽、またダンスとの共演など他分野とのコラボレーションも多い。「Just Composed in Yokohama」、「超難解音楽祭」(仙台)音楽監督・プロデュースなども行う。サントリーサマーフェスティバル、東京の夏音楽祭、武生国際音楽祭に数多く出演。

指揮者として、東京室内歌劇場で現代オペラを指揮する他、広響、東京フィル他とも共演。NHKテレビ「名曲探偵アマデウス」、東京フィル、札幌、水戸室内管弦楽団等でピアノ演奏とトークを交えたアンソロジー等を展開。現代音楽を初めて聞く方へのレクチャーコンサート、ワークショップも各地で行い現代音楽の普及にも努めている。

これまでに高山仁、大岩秀俊、中島和彦、ロベール・グローロの各氏に師事。01年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ノマド」のピアニスト、指揮者。お茶の水女子大学、桐朋学園大学非常勤講師。



金井喜久子
KANAI Kikuko

沖縄生まれ。日本音楽学校で声楽を学んだ後、東京音楽学校の作曲科に女性として初めて入学。尾高尚忠、呉泰次郎、ケルロイターらに師事。交響曲を完成させた初の女性作曲家として知られる。沖縄にある南島の民族音楽に注目し、その伝統に基づいた作品を数多く発表する。1936年頃より南島の民謡やイデオムに基づき一連の歌曲を作る。1940年代には琉球舞踏曲や交響曲第2番等のオーケストラ作品を立て続けに発表。「琉球国民楽派」的な作風を確立。1968年歌劇「沖繩物語」を発表。沖縄民謡を採譜した「琉球の民謡」を出版し、執筆活動でも功績を残した。映画「八月十五夜の茶屋」の音楽を担当、1971年「じんじん」でレコード大賞童謡賞を受賞。



大木 英子
OKI Hideko

北海道小樽市生まれ。帝国高等音楽院ピアノ科を卒業。ピアノをマリオ・パッチに、作曲を夫である大木正夫に師事する。1956年日本放送協会の芸術祭管弦楽部門入選。翌57年に、上田仁指揮による東京交響楽団の日本人作曲家の作品初演シリーズで「雪のふるさと」が演奏された。また、ピアノを中心とした楽曲を多く作曲したが、1960年代から管弦楽作品も多く手がけるようになる。

1961年、TBS創立10周年を機に設けられ、「日本を素材とする管弦楽曲」を公募したTBS作曲賞の第1回特賞作品に「ピアノとオーケストラのための協奏詩曲「舞い楽」」が選ばれた。作風は日本民族楽派に近いが、1960年代の作曲界の主流であった前衛音楽とは一線を画し、日本の伝統的な音階やリズムを大切にしながら現在の日本人の心にも訴える作品を数多く残している。



小出 稚子
KOIDE Noriko

1982年生まれ。「鬼子母神不眠ガールズ」及び「すけべ人間」各メンバー。東京音楽大学大学院、アムステルダム音楽院修了。ハーグ王立音楽院 在学中。ロムミュージックファンデーション奨学生。第17回芥川作曲賞、第76回日本音楽コンクール作曲部門第2位、岩谷賞、第18回出光音楽賞、2012年アリオン賞等受賞。



金子 仁美
KANEKO Hiromi

東京生まれ。桐朋学園大学音楽部、同研究科修了。日仏現代音楽コンクール第1位、日本音楽コンクール作曲部門第1位ほか受賞。1990年フランス政府給費留学生としてパリ国立音楽院作曲科に留学。三善晃、ジュラル・グリゼイに師事。これまでにダラムシュタット現代音楽祭、ニース現代音楽祭等、ヨーロッパを中心に作品が発表されている。1994年にフランス国立音楽音響研究所に研究員として学んだあと、NHK電子音楽スタジオなどで作品制作を行う。2011年から12年には、文化庁芸術家在外研修制度により、パリ第4大学(パリ・ソルボンヌ)に招聘研究員として在籍した。また、2001年に結成したアンサンブル・ウーヴォ代表として、世界各国の多くの注目作の日本初演演奏会や海外公演のプロデュースを行ってきた。作品は全音楽譜出版社より出版。「フルト協奏曲」、金子仁美作品集「スベクトラル・マターズ」他のCDが発売されている。

現在、桐朋学園大学音楽学部准教授。



仙台フィルハーモニー管弦楽団

Sendai Philharmonic Orchestra

1973年創立。日立システムズホール仙台(仙台市青年文化センター)での定期演奏会(年間9回18公演)をはじめ、東日本エリアを中心に年間約110公演に及ぶ演奏活動を展開。仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバル(通称「せんくら」)への出演など、本拠地である仙台の音楽文化の振興にも大きく貢献している。2011年3月の大震災後は、「音楽の力による復興センター・東北」と協力して“つなかれ心 つなかれ力”を掲げて、音楽を被災者のもとに届けながら絆を紡ぐ活動も展開している。それらの活動に対し2011年度エクソコンモービル音楽賞洋楽部門本賞と渡邊暁雄音楽基金特別支援を受賞。2013年3月には(独行)国際交流基金の依頼によりロシアで被災地の代表として演奏し、震災後に世界から寄せられた支援への感謝の気持ちと、復興に向かう被災地を音楽の力で支え続ける楽団の姿を伝え、その大役を果たした。

常任指揮者にパスカル・ヴェロ、首席客演指揮者に小泉和裕、ミュージック・パートナーに山田和樹が就任している。



解説 片山 杜秀

KATAYAMA Morihide

1963年、仙台に生まれ、東京で育つ。慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学。

思想研究者、音楽批評家。特に日本の近現代の思想、文化、芸術に関心を持つ。著書に「近代日本の右翼思想」(講談社)、「片山杜秀の本1」(アルテスパブリッシング)、共著書に「日本戦後音楽史」(平凡社)、「日本主義的教養の時代」(柏書房)など。音楽批評、CDライナーノート執筆ほか、多くのCDや演奏会の企画構成に携わる。2013年「未完のファシズム——持たざる国日本の運命」(新潮選書)で第16回司馬遼太郎賞受賞。